內鄉村報

天ニ法人則
ルニ從順
ベシナ

骨は故郷の墳墓に

大內一郎

これは杉田地藏尊開眼式幷に施餓鬼大供養を滯りなく擧行した翌日たる三月二十五日に、後援會役員全部を招待して感謝會を開いた時、長男が述べた挨拶の大要であります。我一家の理想の一端にも觸れて居りますので、こゝに採錄したのであります。

（民惠）

私は只今父より紹介があつた一郎であります。此度は皆樣のお蔭で、有り難い御地藏樣を、建てさせて頂いた事を、衷心より御禮を申上げます。此機會に於て御挨拶旁私の御願の筋を、極めて簡單に申上げさせていたゞきます。

私は大平洋の眞直中布哇で、母の胎內に宿り、新潟市で呱々の聲をあげ、爾來兩親について各所に轉住して、今日に到つたものであります。されど故郷と申せば、父祖累代から今日迄、皆樣の御先祖や、皆樣の御世話になつて居る、此杉田村より外にはないのであります。昔の偉い人は

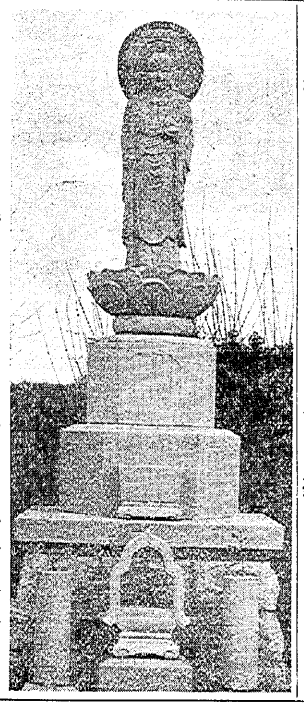
男子志を立てゝ鄉關を出つ　學若し成らずんば死すとも歸らず
骨を埋むる豈墳墓の地を期せんや　人間到る處に靑山あり

などゝ申して居りますが、父と同樣平凡なる私は、無論死を期して、事業の達成には精勵すべきも、此骨は契つて此杉田に埋むる覺悟であります。

而して父は先年、敎育制度改革概論を書き、其九主義中に、敎育分區主義といふのがありますが、之は要するに、國家の興隆は、村を單位として興隆した總和でなければならぬといふ主義なのであります。私は之に鑑みて、聊か微力を致したいと、念願いたして居るものであります。北海道に移住氏として參りますのも、兩鈴木さんの兩二男さんをお預りして參りますのも、畢竟そうした希望に基くものであります。先つ自らの勞力によつて、北海道の農業、北海道に即した生活を研究すると共に、一家自活の道を立て人口過剩に苦しむ我村から出來べくもないので自ら省みて轉た望洋の嘆なき能はずであります。冀くば皆樣に於かれては、丁度此度地藏尊を建立する爲に、擧村一致我一家を御後援下さつたと同樣、村の爲に將た國家の爲めに、私の事業にも御願申上ぐる次第であります。以上をもちまして御挨拶といたします。

× × ×

（附記）以上申上げた樣に、移住者たるものが、其鄉里に骨を埋めるといふ事になると移住地に對しては、一時的腰掛的になり、殖民の本旨にかなはぬかに思はれますが、私の如き長男といふ立場にある者は、父祖傳來の資產は之を殖やすとも減らす事なく、確實に家督を相續し、立派に祖先の祭祀を繼承すべきであつて、かくてこそ我國民性の美点を發揮し得ものと思はるゝのであります。同時に移住地にあつては、其使命の存する處を自覺して、其を果す爲には與へられたる土地を完全に開拓し利用して、理想的農場を經營し、こゝにも亦敎育分區主義、村力充實主義を實現するは勿論內地に於ける小作農や二男三男やを大に招致斡旋して自作農建設に盡力し、それと相協力して、移住地の般賑發展を期すべきものであると考へらるゝのであります。



杉田地藏尊　尊像五尺一寸　臺石九尺二寸　總丈一丈四尺三寸

御報告

一、本紙三月號に御報告申上げた通り、普く全國から熱烈なる御協賛をいたゞいた結果、こゝに揭載いたした樣な、まことに御見事な地藏尊を建立いたしました。厚く御禮を申上げます。

二、開眼式幷に施餓鬼大供養は、豫定通り新井石龍禪師導師の下に、三月二十四日盛大に擧行いたしました、其狀況及收支決算は、整理つき次第追つて御報告いたします。

拜具

昭和十年四月十五日

福島縣安達郡杉田村

杉田地藏尊建立後援會

一人でも多く移住せらるゝ方々をお迎へして、御世話申し上げたいと、思つて居るのであります。然しもと〳〵若冠にして、迂鈍なる私には、そうした大袈裟な事業にも御聲援御助力下さる樣切に御願申上ぐる次第であります。

又此度私が移住する爲めには、少くも二三年の間、我母が炊事係として、私と行を共にしてくれる事になり、父は目下磐中在學中の弟と共に、磐城にあつて從來の事業に携はる事になり此留守宅も今迄より以上、皆樣の御厄介になる事と存じます、尙此上とも御面倒を見て下さる樣くれ〴〵も御願申上ぐる次第であります。以上をもちまして御挨拶といたします。

× × ×

內鄉村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村內公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村內の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大內一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を發ぬるものなり。

本紙定價一部金五錢ケ年滿稅共金四一十八錢
發行所　福島縣石城郡內郷村字宮下二
內鄉村報社
編輯兼發行者兼印刷人　右全所　振替仙臺八四二〇
大內民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九
平活版所

農家の勇躍たるや當なへからさるものだが……

大風呂敷は差扣へて、再び五時三十五分上野に出て、父及地藏尊建立後援會の鈴木武七大友政壽の兩

十一時宿に歸る。

八、簡易食堂　三越　新宿　天金　帝國ホテル　帝劇

九、揚出し　秋葉原市場　東京日々新聞社

昭和十年一月七日　早朝

を出て、有名な上野の「

但し所謂最の地藏尊顏さも拜すべきものは、實際寥々たりだ。賞食は例の松坂屋の食堂、萬事父の採配で武二君と二郎公とは特に附錄付きであつた。そ

り貸切で、大

並に劍道優勝杯を見せて、たゞく誠に立派なものであつた。それより阿佐ケ谷に移川謙伯を大岡山に渡邊要氏を、目黑に吉川善三郎氏を歷訪してそれ〴〵優待を忝うし十一時歸宿する。

内郷村學事概報

本村内各種學校では、三月下旬例年の通り卒修業証書授與式を擧行したが其要項は左の通りである。

◇尋常高等校　（高坂）

尋常科

在籍、一二五八。修業生、一一一八。卒業生、一四〇。優等賞、二六二。進歩賞、七。精勤賞、六四〇。六ヶ年精勤賞、二五。部會賞三、小野正雄、長谷川スミ。新入學生、二九〇。

高等科

在籍、九一九。修業生、五〇五。卒業生、四一三。優等賞一九二。進歩賞、一一。精勤賞、四四七。八ヶ年精勤賞、四六。部會賞、七。絲川三善、根本元二、齋藤彦藏、草野德三、樋口コト、星野ヒデ、長谷川チョノ。新入學生、五〇〇

中等學校入學者

中學、齋藤卓兒、平山英夫、木田實、佐藤豊、會川公平、佐藤福司、先崎定一、本間龜吉。

高女、增子政子、佐藤時子、長谷川スミ、山田ミヨ、山口友子、木村五十子、高萩フク、齋藤キミ。

商業、玉木秀夫、鈴木喜代次、小野正夫、坪井健。

受驗者、三八名中二〇名入學。

受持訓導、田子泰作、竹内チヂ、小野清春、高木マタエ。鈴木ヒデ

管歳英、佐藤一郎、浦山貞一。

教員移動、榊出、訓導田子泰作日和田校へ、同管歳英逢田校へ。轉入、訓導岡田勝雄赤井より、同水田兵治逢田より、同竹内忠内郷第三より。

◇第一校　（御厩）

在籍、四一七。修業生、三六二〇卒業生、五五。優等賞、九一。進歩賞、九。精勤賞、一九〇。部會賞、一。野木實。新入學生、七二

特別賞、中川義政（卒業生）

中等學校入學者

中學、野木實、菅波本一、菅波弘和、鈴木新、吉田耘平。

受驗者七中七名入學

受持訓導、廣木春正。

教員移動、轉出、校長成田政助岩瀬下小屋へ、訓導高木量太郎内郷第三へ。轉入、校長佐藤文雄好間より。

◇第二校　（内町）

在籍、一四二六。修業生、一二二〇、卒業生、二〇六。優等賞、三〇五。進歩賞、三七。精勤賞、七三九。六ヶ年精勤賞、二六。部會賞、三駒木根博、武藤義紀、堀喜代子。

新入學生、二七一。

中等學校入學者

中學、大竹和男、佐藤幸七、武藤義紀、新要務、安藤智、馬目太七大河原和夫、間宮忠雄、國見敬一駒木根博、小林眞延、菅原重夫、小野一雄。

高女、石橋君江、堀喜代子、市川澄江、佐川かつ子、薄葉久子、五十嵐ノク、湊恒子、柴田イサ子、菅本キクエ、伊藤ミヨ、北島光子

商業、柴田勇佐、佐藤慶次郎、田村求助、佐藤秀男、小松嘉伯。

受驗者三十三名中二十八名入學

受拜訓導、坂本明之、芳賀正義、星春治。

教員移動、休職、訓導大須賀百世轉出、代教新要喜美合戸校へ。轉入、訓導遠美清一倉校より。

◇第三校　（宮）

在籍、一六一〇。修業生、一六一〇。卒業生、二六一。優等賞、二六六。進歩賞、七三。精勤賞、九二三。六ヶ年精勤賞、二九。部會賞。四、齋藤定良、鈴木誠志、高柳喜代子、渡邊アキ子、六ヶ年精勤兒童保者謝表彰、二九。

中等學校入學者

中學、長谷川昌英、伊藤吉忠、齋藤定良、竹本守。

高女、渡邊アキ、下遠野濱子、吉田榮子、會根絹枝、福島アヤ子、江逢尚子、關谷定代、野村フサ子菅野ミネ、關ハナ、藤沼シゲ、大瀧淳子、高柳喜代子。

商業、石田豊、鈴木誠志、阿部早雄、藥谷好太郎。

受驗者二十八名中二十一名入學

受持訓導、渡邊義衛、竹内忠、三倉盛威、竹島國基。

教員移動、轉入、訓導高木量太郎内郷第一より。新任、訓導上遠野裕師範卒業。

◇公民礦業學校　（内町）

在籍、八五。修業生、八二。優等賞一七。精勤賞、一七。部會賞、一、數馬秀英。

◇家政女學校　（綴）

在籍、一二二。修業生、五八。卒業生、六四、優等賞、一二。精勤賞四三、二ヶ年精勤賞、九。部會賞一、高田ヨカ。新入學生、六六。

村會

三月二十二日開會、磐炭及各炭礦より小學校增築費寄附採納の件、九年度歳入歳出追加豫算の件、區長及區長代理者決定の件、消防第五部に十五名增員の件等を附議決定した。

區長改選

區長及區長代理は、別項記載の通り改選を行はれた。其氏名を左に、順序は區順

○点は再選

區長

大越惣一郎　小松多嘉

高萩佐重　藥谷豊之助

○久野藤二郎　○鈴木庄太郎

○金澤慶一　○佐藤久太郎

齋藤鶴吉　廣木春之允

江尻萬與　遠藤嘉一

○生田傳四郎　○網掛豊作

○草野末吉　○草野利雄

○山下喜代治　加藤丈夫

區長代理

○伊勢谷重藏　○高橋仁太郎

三坂廣次郎　鈴木茂吉

鹽原才太郎　栗城定次郎

坂本庄吉　○伊藤常太郎

國分德太郎　後藤平次郎

創立二十年式

内郷尋常高等小學校は、創立滿三十週年に相當するを以て、四月十二日午前九時より、盛大莊重なる記念式を擧行した。

農會功勞者

石城郡農會に於ては、來る十七日農事功勞者を表彰する由であるが、本村にては金澤爲喜、小松柳太郎の兩氏、其表彰をうくる事に決定したる由。

消防手表彰

平署管内春期聯合消防撿閲は、來る十九日高月臺で執行せらるゝが、其際本村にて表彰せらるゝ人々は左の通り決定したる由。

小頭　山下喜代美　伍長　藥谷友好　馬目泰一　野木朝吉

大平次郎　消防手　大越藏司

鈴木重平　中村清春

家政保護者會

内郷家政女學校に於ては、三月三十一日新入學生の保護者會を擧行し、六十三名の出席者あり、弓田校長より當校の學年編成、本年度入學希望者收容狀況、保護者とし、學校側として、當校在學生に對し如何なる期待をいだくべきかを說き、技能的方面、精神的方面の訓練綱目並に方法等の提示をなしたる由。因に同校に於ては、品性陶冶の六方面忠實、辛抱强く、用意周到、健康に留意し、しつかり者頼しき女を養成する爲に、目標守踐各十項につきて、教養を加へる方針の由。

磐青峯根支部

同支部では、四月七日倶樂部に於て第九回定期總會と創立十週年記念式とを擧行し、記念品の贈呈をも行つた。

◎本紙贊助金寄贈芳名

金參圓　平　木幡博光

金壹圓　京都　秋山角彌

金壹圓　日和田　某氏

金五拾錢　東京　助川太一

金五拾錢　同　山川清

金六拾錢　仙臺　川田三郎

（第三種郵便物

濱崎副所長殿　机下

第三斜坑運搬夫　水戸吉次

矢野恒太　服部宇之吉　序　大内民憲　著

教育制度改革概論

（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威　前京大總長小西重直博士

書を寄せて曰く、多年ノ御職驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞學愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不堪感激ニ打タレ申候云々。

其口[illegible]試問問題は、何故徒弟を志願したるか、國民の三大義務とは、現總理大臣は誰か、日本に於ける三大

午前六時淺野翁頌記念館に開催、參會者五十餘名、朝食を共にして散會した。講師は猪狩喜平治氏擔當し「

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目

取次所　内郷村報社

濱崎副所長殿

机下

第三斜坑運搬夫　水戸吉次

公傷入院中の水戸吉次君が、濱崎副所長の人情味に感激して、本紙を通じて其微衷を致したいと、此一文を寄せられたのであつた。これぞ親和親和の熱力の顯現！萬事にかくありたきものと原文のまゝをこゝに採錄したものである。（民惠）

濱崎善三郎氏　磐炭副所長

小生公傷入院以來有り難く感じた事は、濱崎副所長が、御自身の御負傷をも省みず、吾々入院患者に對して、朝な夕なに、容體並に食事の事に至る迄御心にかけられ、過日の如きは、吾々の病室に御出になられ、患者一人々々に、篤き御言葉を下され、殊に私へは、君の顔はよく知つて居る、大事にせよとの御言葉を下さつた時には、感極まり目よりは熱き涙が落ちました殊に本日（三月二十五日）副所長殿が御退院に際しては、吾々入院患者一同へ、御見舞品迄賜はり、何共御禮を申す言葉もありません。吾々患者は、御言葉の如く一日も早く全快致し、又亦會社の爲め大に働く積りで有りますから、他事ながら御休心下さい。先は入院患者一同を代表し、厚く々々御禮申上ぐる次第であります。

昭和十年三月二十五日

健保議員改選

磐炭健康保險組合會議員滿期となりたるを以て、三月十日それ〴〵事業主と被保險者の互選とを了し、同時に理事及理事長を決定した其氏名は左の通りである。

△選定議員　○点は理事

○濱崎善三郎　○會田政次郎
○加美　武夫　湊　慶三郎
長谷川　幾之助　三澤　義則
小野　昇　○齋藤　祐治
○倉田亀之助　○上原四郎
田中宇一郎　久栖　道男
田中義枝　柳瀬菊次郎
山崎辰亥　猪狩喜平治
武藤義造　石田　秀二
井上惠助

△互選議員

○小林　正己　○二木才次郎
加藤亀藏　○藤田淺吉
箭田　初穂　小岩末吉

豫算認可

磐炭健保組合では、豫て社會局に申請中の十年度豫算が、三月二十六日を以て認可になつた。其收支金額は十八萬參百八拾九圓の由。

健康者表彰

磐炭健保組合では四月七日淺野翁記念館にて健康者の表彰式を擧行した。八ヶ年二二名、七ヶ年一〇名、六ヶ年一八名、五ヶ年二四名四ヶ年四五名、三ヶ年五七名、二ヶ年九六名、一ヶ年四〇二名、總計六七四名。

磐炭徒弟採用

磐炭では、三月三十一日及四月七八兩日にわたり、十年度徒弟採用試驗を行ひ、應募者一一七名中より、左記三十名を採用した。

田中政雄　皆川清喜　矢澤務　齋藤勇　櫻村郷光　遊亀男　野木寛明　中館一男　邊常雄　彩吾　齊藤　高橋誠　岩雄　木村信男　竹内渡　福地忠一　赤石深浩中　木村清一　大谷義郎　長久保佳孝　小室勝義　沼好男　岡寅藏　遠藤勇　門馬俊雄　野崎嘉久男　鈴木茂男　渡邊信一　田中裕次　鈴木文雄　山崎貞也　掛正平　網間

後藤平次郎　○高橋仁太郎
○伊勢谷重藏　鈴木茂吉
三坂廣　栗城定次郎
鹽原才太郎　○伊藤常太郎
坂本庄吉　國分德太
佐藤隆　田中恭平
梅澤眞太郎

△理事長　濱崎善三郎

綴女青發會式

三月三十一日午後一時より淺野翁記念館に於て擧行した。其役員を左に

會長　山崎辰亥
副會長　佐藤今朝治　橋本之宏
理事　佐藤治　渡邊幾
幹事長　阿部惣重　中
川口善治　山崎吾
川國雄　沼田
三豆畑仁左工門
敬助　小安積俊一　書記
々木吉衛　佐藤豊　幹事
齋藤八重子　横山オサヨ
高萩ミヨシ　勝村喜美子
横田キクエ

災害防止講演會

日本鑛山協會主催災害防止講演會は三月二十四日午後一時淺野翁頌德記念館に開催、仙鑛局平塚技師は通氣に就いて、同多田技師は瓦斯炭塵爆發防止に就きて講演あり。聽講者は入山、古河、磐城各炭礦、保安、衛生、發破、安全爆火藥各員二百有餘名であつた。

修養團向上會

修養團磐城炭礦支部主催、早起向上會は三月三十一日午前六時淺野翁頌記念館に開催、參會者五十餘名、朝食を共にして散會した。講師は猪狩喜平治氏擔當し「心の力」「道の光」の朗讀國歌合唱、ヨイサ運動等を擧行した。

夜警表彰と辨論會

恒例に依り昨年十二月十五日より本年三月十五日迄滿三ヶ月間青年會各支部一齊に夜警出勤中無事故の爲に依り、礦業所より各支部に對し金壹封と感謝狀とを下附された。尚此日同時に青年會第四回辨論會を開催し勞働と生產、水野宗三郎。青年の覺悟、金成正志。非常時と青年、高橋勇一郎。幸福の我觀、古市磨。礦山青年に叫ぶ、箱崎高義。戰爭と平和、多賀喜市。防災運動を論ず、志賀英夫。會員諸子に望む、荒木計。の出演に對し、猪狩喜平治高野金作兩氏の講評があつて散會した。

曙窓會の美擧

第三小學校昭和四年の卒業生三十余名を以て組織せる同會では、會員たる町田坑小使吉田定雄君の父君保吉氏が三月十四殉職し定雄君が母及弟妹七人を擁して、精勵して居るに同情し金壹封を贈つて弔慰したる由。會長は村上市藏君

矢野　恒太
服部字之吉　序　大内民惠　著

教育制度改革概論

（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧にいとまあらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜ノ味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

發行所　日本評論社
東京京橋三丁目
取次所　内郷村報社

東京見學記（二）

大内一郎

六、上野　淺草　松坂屋

昭和十年一月四日

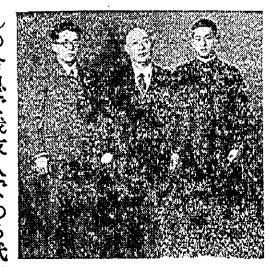
今日は父が上京せらるゝ日なので出迎旁々早朝より上野方面へと足をむける。先公園の西郷銅像下より市内を展望する、大小幾多の建物が林立して、如何にも大東京の面目躍如たりであるが、扨て眼を脚下に轉ずる時、紙屑と密柑の皮とが散在して、其對象は些か奇である。次いで動物園に入り、支關正面で今しも我世の春を謳へる、猪之助猪之君猪之太郎に初見參するそれより園内を一巡して、國際的動物連を一瞥し、地下鐵で淺草に行く。地下鐵も今では實用化されたものゝ如く、同時に改善擴張もされた樣だ。ゴツタ返しの中を觀音樣に詣で、晝食後興行街に進出する。大衆娯樂場丈けに、凡ゆる大衆を惹きつけて居る。富士館で時代劇を見、急遽上野に引き返し三時五三分常磐線着を迎へたが、父一行が見えないので松坂屋で買物をする。近代色豊かなデパートは遠がに客の心理を旨く捕へて居ると思ふ。農家も産業組合の事業か、又は其他の方法で、大きなデパートでも建てゝ、都會憧憬者をどん〳〵從業させて、各々其志を遂げしめ、農産物を潤澤に供給販賣し、生産者もそれ相當の報酬を得る樣にしたら、誠に結構な次第であると思ふ。尤もそうなると、農家の鼻息たるや當るべからざるものだが……

大風呂敷は差扣へて、再び五時三十五分上野に出て、父及地藏尊建立後援會の鈴木武七大友政藏の兩氏を迎へ、一同揃つて淺草に行き再度參詣をし、牛鍋で夕食をすまし、江川劇場で五一郎一座の喜劇を見物する。大に笑つて飛び出し父の指揮に從つて、五人づらりと屋臺店に首を突込み握ぎり壽司を味ふ。十時會館に引き上げ、三階と二階に陣取つて就床する。

七、淨名院　總持寺　銀座　歌舞伎座　寄席

昭和十年一月五日

朝八時一行五人打つれて、鈴木さん の令息で我友人である武二君を近衛二聯隊に訪問、面會を申込めば、待つ間程なく、見ちがひる程立派になつた帝國軍人、キリツとした軍服姿で元氣よく出て來た。來月は滿洲某地に派遣せらるゝとの事である。幸ひ今日は休暇日であるといふので、一行に加へて同勢六人貸切りで、數千體の地藏尊で有名な上野の淨名院に赴く。此度建立する杉田地藏尊の參考といふ次第なので、大友さんはじめ大いに目を瞳つて、檢分否參拜する但し所謂眞の地尊顔とも拜すべきものは、實際參々たりだ。晝食は例の松坂屋の食堂、萬事父の採配で武二君と二郎公とは特に附錄付きであつた。そ



丈　二郎
く　父
ら　一
べ　郎

り貸切で、大東京を南北に縦斷して、鶴見の曹洞宗本山總持寺に參詣、先つ淺野翁の墓に詣で、併せて附近なる各種の墓石を參考の爲見學し、會館に引きかへし、萬歳を齊唱して武二君を送り、鈴木大友兩氏も、出掛けたので、我等三人は會館で夕食をとり、入浴をすまし館内の床屋で頭と顔の整理をして、市電で愈々銀座に乘り出す。ネオンサインは大空まで輝き渡り、一大不夜街？天上の月も影うすく感ぜられ人車の往來又目まぐるしい。北海道の皓々たる月を眺めて居ることは大に趣を異にする。我は寧ろ此喧々囂々たるよりは、我靜々寂々たる北海道を愛する。有名な喫茶店オリヒツクに入り、父が在米時代苦學生仲間で親友であつた矢部支配人に面會する。握手から始まつて父との間に、色々の話が飛出す、キヒ〳〵と如才ない話振りには、先づ大に感心する。北海道生活に取り入れる爲に、パンと菓子の製造見習に、一週間位入れて戴きたいと申込んだが、工場の方は絶對秘密であり、又職工も敎へる程の餘裕もないといふ事であつた。かくて出來立てのケーキとコーヒーを御馳走になり、キアンデーの御土産をいたゞいて出る。それより一度は見て置くべきものとあつて歌舞伎座に飛び込んで立見をする結構の莊麗は云ふまでもない。恰も二幕目「高坏」の場面で菊五郎三津五郎兩丈等妙技を振ふ成程と感心する。それから四谷の寄席喜よしに押しかける。落語掛合萬歳講談聲色等々、又一種の味ひがある江戸時代にチヨン髷の人々がおせんべりり〳〵しながら、陶醉した場面を相像するに難くない。閉れてからおでん屋で夜食をしたゝめ十一時宿に歸る。

八、簡易食堂　三越　新宿　天金　帝國ホテル　帝劇

昭和十年一月六日

會館の食堂で朝食を攝る。二郎公相變らず二人前食べるので給仕も驚いて居る。十時頃鈴木大友兩氏が見えたので、市電で下谷車坂の石工小松亀次郎氏を訪問して、地藏尊彫刻の交渉をし、上野市營食堂で、十錢の定晝食をとる。井一杯の御飯と、お汁漬物お菜がつくことも仲々簡單にして要を得て居る。此處で兩氏に別れ、地下鐵で三越に到り、姉の新家庭にヲタマシとして贈るべく、數々の鑒所用品をあれかこれかと三人で買調ひ父を中心に丈比べの記念寫眞をとる。どうやら父が一番低いらしい多年

御挨拶

年來御配慮をいたゝいた小生の方針も漸く緒につき去る二日郷里杉田を出發五日入地舊臘新築したる住宅を根據として母及二少年（實習生）二耕馬と共に愈々處女地開拓に着手する事に相成りましたから御安心下さると同時に倍舊の御愛顧御聲援をたまはる樣幾重にも御願申上げます先は御挨拶まで

昭和十年四月十五日　北海道十勝上川郡清水村北清水（驛より二十丁）　大内一郎　拜具

昭和十年一月八日

起床後直ちに荷物をまとめ、之も見學の爲め、年來父の定宿である上野禁酒ホテルに宿替する。此處も異色ある宿屋といふべきであらう今日は訪問デーといふ譯で、先つ省線で府下新原町田に、父の友人安齋直江氏を訪問する。生憎御主人夫妻がお留守なので、邸の内外を見せて戴いて、晝食を御馳走になつて失禮し、中野に今泉章吉氏を訪ひ、姻戚に當る梅澤少將に敬意を表し、厚き御歡待をうけ今息が陸士隊等卒業の恩賜の銀時計並に劍道優勝杯を見せていたゞく誠に立派なものであつた。それより渡邊要氏を、目黒に吉川藷伯を大岡山に阿佐ケ谷に移り藷伯を大岡山に吉川善三郎氏を歷訪してそれ〳〵優待を受け十一時歸宿する。

昭和十年一月六日

揚出し」で朝食をとり、秋葉原の野菜市場を見學する。見るからに新鮮なる、いろ〳〵の野菜を見る事である。我々も農産物に配列してある。畜産物を出荷販賣するに際し、實質は勿論の事、外見にも相當な注意を拂ふべきものだと思つた。須田町から電車に乘り、九段下で父と別れ、我等兩人で牛込の友人甲斐根誠一君を見舞ふ。一ケ月かゝつた病氣も漸く癒えて、二三日中に出勤するのだといふので安心した。連れ立つて會館にもどり、夕方父と共に徒歩で、同君の奉職して居る、東日新聞社にいたり、社内を一通り見せてもらひ、福島版編輯主任にも會見し、更科で夕食をとり歸館して早寢をする。

十、禁酒ホテル　各家訪問

昭和十年一月七日

早朝を出て、有名な上野の「

脛をかぢられたせいかも知れない次いで新宿の大通りを見物徜徉する、格別感心する事もない。引きかへして名代なる天金で夕食をすまし、帝國ホテル内を見學する。申すまでもなく我國代表的のものではあるが、意外に垢抜けしないかに思はれた。それより帝國劇場で、「キングコング」「伽羅バトラ」を見る。前者はお伽話を眼で見る樣で罪がなく、後者は功成り名遂げたる英雄も美人のために哀れな末路を辿るといふ歷史物語で仲々面白かつた。宿に歸つたのが九時二郎公また食ひ足りぬと見えて、お汁粉をたべて居る。

九、場出し　秋葉原市場　東京日々新聞社

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は手塚に謀する遺言を發ぬるものなり。

毎月一回一日發行

本紙定價一部金五錢ケ年滿額金四一十八錢
郵送料石城郡内郷村字宮下宮注二
發行所　内郷村報社
編輯發行兼印刷人　右全所　振替仙臺八四二〇
大内民惠
電話磐城石炭都平町一丁目二九
印刷所　平活版所

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を褒彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報　天法人則　二從順ナ